

平成30年度 学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>1 生徒一人一人の実態を把握し、実態に即した分かりやすい授業のための指導方法の工夫と改善 2 生徒の自己認識を深めるための支援の充実 3 教科会の充実とともに、現職研修、職業種目研修、授業研修の積極的な実施 4 行事の精選、会議の効率化、部活動の見直し等による教職員の多忙化解消の促進</p>			
<p>項目 (担当)</p>	<p>重点目標</p>		<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>
<p>総務部</p>	<p>・学校便り、PTA 便りを通して、生徒が本校をより深く知ることができるようにする。 ・会議日程を見直し、授業研究や生徒指導の充実を図る。</p>	<p>2 1</p>	<p>・学校便り、PTA 便りを教室に掲示する。 ・学校便り、PTA 便りの発行を生徒に知らせ、読む時間や発表する機会を設定する。 ・会議の効率化に向けて検討し、教材研究や生徒指導の時間を捻出できるよう改善する。</p>	<p>・学校便りや PTA 便りが保護者への配付に留まることのないよう、学年主任、担任と連携して進めていく。 ・各校務主任や学年主任と連携を密に取り、学校行事計画や日程変更を速やかに知らせて職員の周知を図る。</p>
<p>教務部</p>	<p>・新学習指導要領について理解を深める。 ・生徒の自己認識を深める活動を行うための体制づくりを行う。</p>	<p>1 2</p>	<p>・新学習指導要領について、伝達講習を行い職員理解を深める。 ・教務部の中で担当を決め、自己認識を深める活動を進めるようにする。また、年度末には学年主任・担任に反省アンケートをとり、取組の成果を職員にフィードバックする。</p>	<p>・部会、学年会、教科会等において、計画的に伝達をしていく。 ・特別活動主任や学年主任、担任と連携を取り、活動を進めていくようにする。</p>
<p>教育支援部</p>	<p>・生徒が分かる授業で、生徒の成長と教科会の充実を図る。 ・ICT環境の整備を図るとともに、ICT機器を使用した効果的な指導ができるようにする。</p>	<p>1 3 1 3</p>	<p>・公開授業のテーマを設定し、テーマに沿った教科会での話し合いや公開授業の実施、振り返りを行う。 ・授業の評価の仕方を工夫し、適切な評価を行う。 ・ICT環境を整備する。 ・タブレット端末研修を実施する。 ・ICT機器を使用した効果的な取組や目立った取組を、通信を発行し職員に伝える。</p>	<p>・研究推進委員会を中心に、教科会Ⅱ・Ⅲや教務部と連携しながら進める。 ・授業の様子や生徒アンケート等から生徒の理解度、成長を客観的に評価できるようにする。 ・ICT環境の現状を把握し、改善する。 ・アプリを使用した教材作りの研修を実施する。 ・アンケートや授業参観等から情報収集を行う。</p>
<p>生徒指導部</p>	<p>・生徒が中心となる活動を増やし、自主性を養う。 ・道徳教育を中心に規範意識やいじめをしないという意識を高める。</p>	<p>1 2</p>	<p>・委員会や会議等の司会を行う場合を設定する。 ・いろいろな行事の企画、運営に際して助言をする。 ・アンケート(生徒会通信)を作成し、結果を掲示する。 ・SNS等の適した使用方法を伝える。</p>	<p>・生徒が活躍できる場(会議や行事等)の検討を、関係校務や委員会としっかり行う。 ・マナーやモラル、SNS等に関する知識を教職員で共通理解を図っておく。</p>
<p>保健体育部</p>	<p>・生徒・教職員が安心・安全に過ごせるように、相談活動に充実と学校環境衛生の維持・改善を図る。 ・健康・安全の知識・技能を習得し、実践力を高める。</p>	<p>2 3 2</p>	<p>・生徒が心の悩みや心配事を相談しやすい環境づくりを行う。 ・危険予知トレーニングを全学年、全ての職業種目で実施する。 ・校務部会後、校内巡視を行い、危険箇所を調査し、早急に改善する。 ・簡単な手当の仕方や、けが防止のための取組を生徒・教職員に伝達する。</p>	<p>・悩みを抱えないように、生徒が自分から教職員へ相談するように促す。 ・工業科主任、教育支援部と連携し、教科会Ⅱで危険予知トレーニングの実施方法を検討し、実施する。 ・生徒・教職員が危険箇所に気づいて行動できるように啓発活動を行う。 ・生徒保健員会と連携をとり、全生徒に本校のけがの状況等を定期的に報告し、改善を促す。</p>

<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員就職、定着を目指し、職員間の共通理解を図り、進路活動を行う。 ・事業所が本校、生徒に対する理解を深められるようにし、また、その声を職員に伝える。 	<p>1 3 1 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部会や研修等で企業が求める生徒像を伝え、学年会等で進路の進め方を伝えていく。 ・同窓会総会で卒業生の状況アンケートをとり、経年による卒業生の状況の変化を知り、進路指導に役立てる。 ・就労支援のための映像コンテンツを用い、本校のPRを積極的に行うとともに、事業所の声を職員に伝える。 ・事業所の面接会や意見交換会等に参加し、学校見学を積極的に促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任と連携をとり、適切なタイミングで伝達、研修を行う。 ・アンケートの結果を分析し、日々の進路指導に生かせるようにする。 ・教育支援部と連携し、映像コンテンツの他の利用方法、展開を考える。 ・工業科主任と連携し、学校見学時の事業所の声を授業に生かす。
<p>寮務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の目的や内容、実施時期を見直し、目的意識をもって取り組み、達成感を得ることができるようにする。 ・医薬品の取扱い及び体調不良時の対応について、保護者と共通理解を図る。 	<p>2 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を吟味し、内容を精選するとともに、しっかりと計画を立て、目的を意識し、生徒・職員が見通しをもって取り組むことができるようにする。 ・学校HPから服薬依頼書がダウンロードできるようにするとともに、寄宿舎での医薬品の取扱いについて懇談会等を活用し、保護者と共通理解を図る。 ・生徒一人一人の実態を把握するとともに、個に応じた具体的な支援方法について職員間で共通理解を図り、生徒を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的について職員間の共通理解を図るとともに、行事のイメージが共有できるようにする。 ・他校の取組も参考にしながら、保護者にとって分かりやすく活用しやすい方法を検討する。 ・職員の経験年数やそれぞれの得意な分野を生かし、「チーム」として生徒の指導、支援に取り組む。
<p>運営委員会 部会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多忙化の解消を図る。 ・職員の負担が軽減するよう部活動全般を見直す。 ・寄宿舎行事の効率的な運営の在り方を考える。 	<p>4 4 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、試行的に多忙化解消の取組で実施した内容を継続し定着を図る。 ・仕事の分担、年次休暇の取得促進、定時退校日の遵守等、多忙化解消につながる方法を考え実践する。 ・指導体制の見直し、効果的な運営方法について検討する。 ・前年踏襲ではなく、行事の目的や内容を見直す。 ・職員の連携を高め、チームとして寄宿舎の運営に取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で意識して取り組めるよう、会議等で定期的に職員に周知する。 ・日々の指導体制の見える化を確実に行う。 ・指導体制の状況に応じた、活動内容を工夫し、職員の効果的な休憩の取り方を検討する。 ・運営の改善点を見つけ整理する。 ・「チーム力」というキャッチフレーズを掲げ、報連相を確実に行ない、職員の連携意識を高める。
<p>学校関係者評価を実施する 主な評価項目</p>	<p>各校務分掌の重点目標を評価項目とし、各重点目標の達成度を下記評価基準に則して評価する。 (各校務分掌の重点目標は、上記「本年度の重点目標」に関連した内容を設定し、番号で示した。)</p>			

※評価基準

A：計画どおりに進んでいる。

B：ほぼ計画どおりに進んでいる。

C：あまり計画どおりに進んでいない。

D：計画どおりに進んでいない。